

# 平成28年度 自己評価書・学校関係者評価書

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

## ①豊かな心をはぐくむ教育の推進

<b>1 一人一人の児童生徒の尊重</b>	<b>2 友達への思いやり</b>	<b>3 道徳・心の教育の充実</b>
学校は、一人一人の子どもを大切にされた指導や対応ができていますか。	子どもは、友だちとなかよくしていると思いますか。	学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていると思いますか。(礼儀、生命尊重、思いやりなど)
【学校から】○「一人ひとりを大切にされた指導や対応」については、児童一人一人を大切に、児童の自尊感情を高めることに努めている。学習の場や様々な活動の場で、教師は児童のよさを認めることを心がけている。「たけのこカード」等、児童同士が互いを認め合う場も大切にしている。今年度は、児童の「4」の割合が昨年よりも増えている。 ○日常生活での観察、毎月のなかよしアンケート等、児童の友達関係の実態把握に努め、児童が友達となかよく関わられるよう配慮している。「なかよくしている」という項目に対して、今年度は、児童の「4」の割合が昨年よりも増えている。 ○豊かな人間性を育む心の教育として、人権教育の推進と道徳教育の充実を重点項目にあげている。学校から保護者へは、学校だよりや懇談会等で、教育方針や目標を伝え、児童には、集会などで豊かな心の大切さやいじめについて伝えてきた。「心かがやけ月間」では、全学年で「わたしたちの道徳」を家庭に持ち帰り、話題にしてもらったり感想を書いてもらったりした。		

## ②確かな学力を育む教育の推進

<b>4 意欲的な学習態度</b>	<b>5 授業力向上</b>	<b>6 ICT活用</b>
子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。	先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。	先生方は、ICT機器を活用してわかりやすい授業づくりに努めていると思いますか。
【学校から】○昨年度に比べて保護者・児童の「意欲的に授業に取り組んでいる・どちらかといえばそう思う」の割合が高くなっている。本年度の研究テーマである「学ぶ楽しさや分かる喜びが実感できる授業の工夫」に向けての取組の結果であろう。児童の「どちらかといえばそう思わない」「思わない」の割合は減っているものの、わずかに存在することを受け止め、一人一人の児童へ更に目を向けていきたい。 ○「先生方はわかる授業・楽しい授業に努めている」という項目に対して、「そう思う」の割合が、児童、保護者、教職員共、ほぼ50%に達している。「どちらかといえばそう思う」も含めると90%以上に達していることは、日ごろの取組の成果が出ていると思われる。しかし、わずかに「そう思わない」と感じている児童もおり、より一層、個に応じた手立てを工夫していきたい。		

## ③健やかな体を育む教育の推進

<b>7 健康づくり</b>	<b>8 児童生徒理解</b>	<b>9 いじめや問題への対応</b>
子どもは、好き嫌いをなく食事をし適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。	先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようとしていると思いますか。	学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。

## ①不登校などに対する相談支援体制 子どもたちの身近な安全対策の充実

<b>10 学校の支援体制</b>	<b>11 安全と事故防止</b>	<b>12 施設・設備の安全管理</b>
学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。	学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。	学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。
【学校から】○「8 児童理解」については、授業や行事などを通して、児童の様子を把握し、児童のよさを認める教育活動を行っている。しかし、約1割の児童・保護者が不十分であると評価している。 ○いじめや問題行動については、組織的で迅速な対応を心がけ、児童や職員は十分取り組んでいると評価している。今後も、個々人の様子に細やかに目を配り、保護者との連携を深めていきたい。 ○職員と保護者の意識の温度差はあるが、本校支援体制への保護者の理解も少しずつ広がりがつつある。 ○安全と事故防止については、特に児童は安全面に気をつけていると回答している。ただし、今年度、怪我等した児童もいるため、繰り返し安全教育を保護者と連携して行っていきたい。		

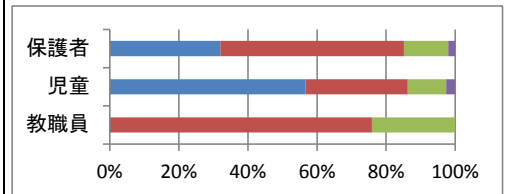
## ③家庭・地域社会との連携強化

<b>13 教育方針・目標の理解</b>	<b>14 家庭や地域との連携協力</b>
学校は、教育方針や教育目標などを、子どもや保護者地域にわかりやすく示していると思いますか。	学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。
【学校から】○本校の教育方針や教育目標、重点目標等については、職員会議等で共通理解を図ってきた。また、保護者には、PTA総会、懇談会、学校・学年だより等を通し、伝えてきた。児童には、集会や学級指導の中で話してきた。 ○「家庭や地域との連携協力」については、2割近くの保護者は不十分と捉えている。理解いただけるように更に情報発信していくとともに、それぞれの役割を果たせるように協働できる部分を増やしていきたい。今年度はまちづくり実行委員長を授業のゲストティーチャーに招く等の取組を行った。	

## 本校の教育

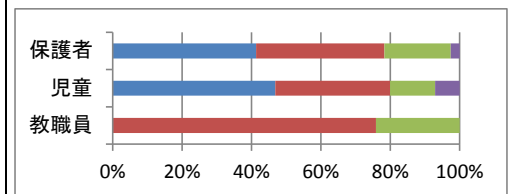
### 15 家庭学習

子どもは、宿題や家庭学習ができていると思いますか。



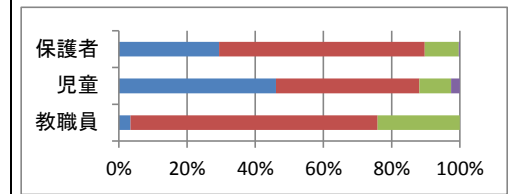
### 16 早寝・早起き・朝ごはん

子どもは、「早寝・早起き・朝ごはん」ができていると思いますか。



### 17 あいさつやきまり

子どもは、あいさつができ、「地域や学校のきまり」を守れていると思いますか。



【学校から】○「家庭学習ができている」「どちらかといえばできている」の割合は、児童、保護者、教職員共若干ではあるが昨年度と比べて増えている。しかし、教職員は「できている」の割合は0であった。この結果から、おそらくどのクラスも100%宿題がそろふことが少ないであろうことが推察される。家庭学習の習慣を身につけるために、より一層の家庭との連携を図っていくように努力したい。  
○今年度は、「あせいっぱい・元気もりもり・いきいき生活」をテーマに、日常の遊び（運動）を通じた生活リズムの改善をねらい学校保健委員会に取り組んだ。生活習慣の改善だけでなく、友達と一緒に遊ぶ・朝の登校時間が早くなる・欠席が減るなど、個々をみると、よい成果がみられる。

○校内では、積極的にあいさつを交わす子どもたちが増えてきている状況である。校内では、廊下歩行、校外生活では公園での遊び方や道路歩行の仕方に課題が見られている。

## 来年度の具体的な取り組みについて

○登校状況の気やかな児童数名の状況が3学期になって、改善しつつある。今年度に引き続き、「元気に登校、笑顔で下校」の合言葉の下、職員一同、「チーム春竹」として、取り組んでいきたい。

○今年度は、これまでより更に丁寧に、全国学力学習状況調査の結果について研究部で分析し、全体へと拡げる取組を進めた。今後も、全国学力学習状況調査や学力検査の結果から、学習状況の改善や授業改善について、共通理解・共通実践を図っていきたい。

○今年度、児童会（生活安全委員会）から、「春竹小式あいさつ」ということが提唱されている。「立ち止まる」、「相手の目を見る」など、更に浸透を図っていきたい。

○地震等を想定した、「引き渡し訓練」を保護者の協力を得ながら、実施したい。

## 学校関係者評価

○挨拶は、個人差がある。挨拶がよくなっていると感じることも多いが、子どもによっては挨拶が返って来ないこともあった。しかし、子どもたちと顔見知りになり根気強く地域からも進んで挨拶の声をかけていきたい。さらに挨拶や学校行事に参加・協力することで、子どもとのつながりを大切にしていきたい。

○共働きの増加等家庭環境の変化、子ども会への不参加、高学年での部活動参加等により、地域行事が成り立ちにくくなっている面がある。しかし、まずは子どもたちの参加から若い保護者の参加へとつなげることで、若い人を呼び込む努力を今後も続け、「安心・安全なまちづくり」につなげていきたいと考えている。そのため、今後も引き続き学校の協力を得たいので宜しく願いたい。

○いじめ問題の未然防止策や対応策等についても、今後も保護者に伝えていくことが大切であると思われる。